

一般公開を開催しました

防災科研つくば本所で、4月20日に一般公開「みんなで楽しく、ぼうさいを学ぼう!」を開催しました。小学生の親子連れなど、県内外からおおよそ2,000人が来場しました。大型降雨実験施設での豪雨体験を始め、各研究部門が工夫を凝らした実験や工作などのブース「科学実験屋台村」を設置。また、第2回高専防災減災コンテストで文部科学大臣賞を受賞した和歌山工業高等専門学校による土砂災害を学ぶための体験展示や令和6年能登半島地震被害調査報告などが実施されました。

一般公開については、朝日新聞、読売新聞、茨城新聞、NHK、日刊工業新聞、文教ニュース、いばキラニュース(茨城県が運営する公式YouTubeチャンネル)で報道されました。



開催前に行われた理事長の挨拶



開催時の整理券配布



「地震ザブトン」で地震の揺れを体験



中庭の軽食スペース

地震津波防災研究部門／地震津波火山ネットワークセンター



ペットボトルで地震計を作ってみよう

身近な材料を使って地震計作りに挑戦していただきました。



ミニ津波を起こしてみよう

水槽でミニ津波を起こし、津波が起こる仕組みを見ていただきました。



地震をまなぼう

日本の地下のどこで地震が起きているのか地震キーホルダーや震源ちゃん作成など工作を通して学びました。



世界一大きな実験装置で起こすミニミニ地震

地震の正体である断層のずれを世界最大級の実験装置で再現しました。

火山防災研究部門／火山研究推進センター



火山って何？

火山のポスターや岩石試料の展示、観測機器のデモンストレーションを行いました。



噴火実験

メントスコアラを用いる火山噴火の模擬実験を来場者の皆様とともに実演しました。



君もE-ディフェンスの研究員!!

ストローで地震に強い家を作り、小型震動台に載せて検証していただきました。

水・土砂防災研究部門



竜巻実験

竜巻の発生実験や映像を通して竜巻の仕組みや備えを解説しました。



川を観察してみよう

川ができて変化していく「河川地形学」を模型を使って解説しました。



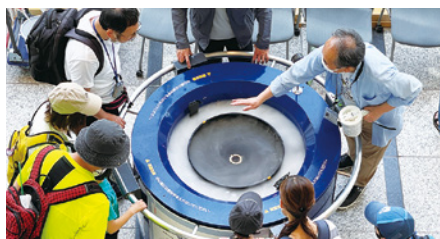
豪雨の中を歩いてみよう

大型降雨実験施設で1時間当たり300mmの猛烈な雨を体験していただきました。



雨粒の形を見てみよう

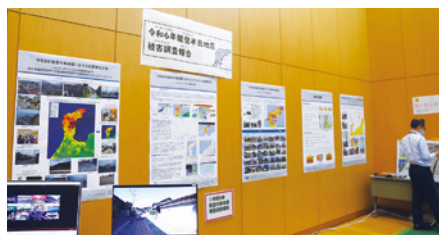
雨粒はどんな形か、雨粒を浮かべてじっくり観察していただきました。



台風のような渦巻を見てみよう

実験装置で渦巻の様子を見ていただきました。

マルチハザードリスク評価研究部門



令和6年能登半島地震被害調査報告

能登半島地震について現地で行った被害調査の紹介をしました。



VRで津波を体験しよう

HMDによる津波のVR体験をしていただきました。



将来の災害を予測し、賢く備えよう

マルチハザードリスク評価研究部門で取り組んでいる研究開発の展示をしました。

防災情報研究部門



謎を解いて災害に備えよう

災害時の困りごとを解決しながら情報や知識を身に付けていく謎解きに挑戦していただきました。

災害過程研究部門



災害過程ってなんだ？

クイズを解いて『こいのぼり』を作ろう！

災害に関するクイズに答えて、こいのぼりを作っていました。

イノベーション共創本部



ロボット先生をプログラミングで動かして学ぶ防災学習

昨年度の高専防災減災コンテストで活動した和歌山高専による土砂災害を学ぶための体験展示をしました。

自然災害情報室



おうち点検！～過去を学び、未来を守る～

「未来を守る」ための備えについての展示や公衆電話などの体験コーナーを設けました。

防災科研クイズラリーを実施

クイズにすべて正解した方に防災科研オリジナル軍手を配布しました。



クイズラリー答え合わせ

2023年度日本地震学会技術開発賞を受賞しました

日本地震学会において、地震学の発展に関わる優れた技術開発および研究基盤構築の功績が認められた個人または団体に贈られる「日本地震学会技術開発賞」を以下の方々が受賞しました。

【受賞対象功績名】震度のリアルタイム演算法の開発

地震津波火山ネットワークセンター 切刀卓副センター長、青井真センター長、マルチハザードリスク評価研究部門 中村洋光副部門長、地震津波火山ネットワークセンター 鈴木亘主任研究員、マルチハザードリスク評価研究部門 森川信之主任研究員、藤原広行部門長が、2023年度日本地震学会技術開発賞を受賞しました。

【受賞対象功績名】海底における長期・多点・広帯域地震観測の実現による地震学分野への貢献

地震津波火山ネットワークセンター 望月将志上席研究員が、東京大学 金沢敏彦名誉教授、塩原肇教授、篠原雅尚教授、自己浮上式海底地震計開発チームの神戸大学 杉岡裕子教授、東京大学 一瀬建日准教授、山田知朗助教、海洋研究開発機構 伊藤亜妃副主任研究員、東京海洋大学 中東和夫教授、株式会社マリン・ワーク・ジャパン 渡邊智毅氏、東京大学 八木健夫氏とともに2023年度日本地震学会技術開発賞を受賞しました。

【受賞対象功績名】高性能・多機能津波計算コードJAGURSの開発

地震津波防災研究部門 齊藤竜彦主任研究員と近貞直孝主任研究員が、JAGURS開発チームの一員として2023年度日本地震学会技術開発賞を受賞しました。

令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞しました

【受賞業績】海底観測データに基づく地震と津波と火山噴火現象の研究

地震津波火山ネットワークセンターの久保田達矢主任研究員が令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受けました。本表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者の功績をたたえるものです。このうち若手科学者賞は萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者に授与されるものです。

令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）を受賞しました

【受賞業績】線状降水帯の検出技術の開発

水・土砂防災研究部門 清水慎吾主任研究員と前坂剛研究統括が、日本気象協会の増田有俊室長、気象庁気象研究所の加藤輝之部長、廣川康隆主任研究官とともに令和6年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞表彰を受けました。本表彰の開発部門は、わが国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって、現に利活用されているものを行った個人もしくはグループまたはこれらの者を育成した個人に授与されるものです。



清水主任研究員（左）、前坂研究統括（中央）、久保田主任研究員（右）

令和5年度防災科研の研究者一人一人による 研究紹介動画アーカイブを公開しました

防災科研の研究者がどのような研究をしているのかを広く一般の方々へ知っていただくために、動画による研究紹介を行っています。この度、過去に制作した動画に加え、令和5年度に制作した動画を公開しました。(五十音順)



能登半島地震 防災科研
カク対応セリ
先進防災技術連携センター
伊勢正



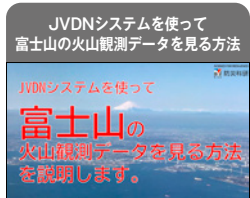
防災情報クリアリングハウス
完結編
防災情報研究部門
磯野猛



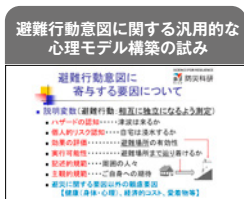
気候変動時代の防災支援
人材育成プログラム
災害過程研究部門
李泰榮



災害時のドローン活用において
必須の知識とは
マルチハザードリスク評価研究部門
伊東卓也



JVDNシステムを使って
富士山の火山観測データを見る方法
を説明します。
火山防災研究部門
上田英樹



避難行動意図に関する汎用的な
心理モデル構築の試み
災害過程研究部門
宇田川真之



ドローン活用への期待と
2つの課題
マルチハザードリスク評価研究部門
内山庄一郎



分譲マンションと災害
災害過程研究部門
大塚理加



防災教育にも使える！Webサイト
「地域防災Web」を知っていますか？
防災情報研究部門
上田啓瑚



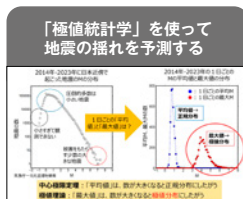
頻発する大地震における
液状化現象の解明
地震減災実験研究部門
河又洋介



地震時における室内空間の機能維持に
向けた環境把握技術に関する研究
地震減災実験研究部門
小松佑人



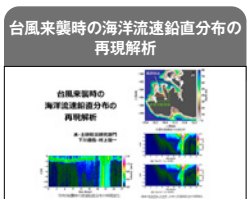
室内～都市災害マルチモニタリング
状態変化・被害把握の研究開発
室内空間を中心とした 機能維持のための研究
地震減災実験研究部門
佐藤栄児



「極値統計学」を使って
地震の揺れを予測する
地震津波火山ネットワークセンター
澤崎郁



新プロジェクト「積乱雲危険度予測情報の
研究開発と社会実装モデルの展開」の紹介
水・土砂防災研究部門
清水慎吾



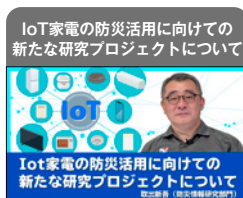
台風来襲時の海洋流速鉛直分布の
再現解析
水・土砂防災研究部門
下川信也・村上智一



防災科研の研究に参加しよう！
～気象リポートシステム「ふるりポ」～
水・土砂防災研究部門
下瀬健一・出世ゆかり



Developing a Flood Susceptibility
Map of Extreme Events for
Social Insurance Business
水・土砂防災研究部門
Shakti.P.C



IoT家電の防災活用に向けての
新たな研究プロジェクトについて
防災情報研究部門
取出新吾



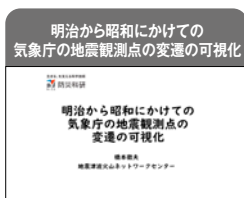
衛星画像の活用により
早期に被害を把握する
マルチハザードリスク評価研究部門
内藤昌平



令和6年能登半島地震における
建物被害推定
マルチハザードリスク評価研究部門
中村洋光



10層鉄骨造オフィス試験体による
建物の動的特性評価実験
一研究成果と取り組みについて
地震減災実験研究部門
西岐汰



明治から昭和にかけての
気象庁の地震観測点の変遷の可視化
地震津波火山ネットワークセンター
橋本徹夫



そらからのセンシングでわかる災害状況
一令和6年能登半島地震の例一
防災情報研究部門
平春



体育館の地震応答制御実験
地震減災実験研究部門
藤原淳



日本列島をCTスキャン
地震津波火山ネットワークセンター
松原誠



御嶽山における
火山防災への取り組み
火山防災研究部門
宮城洋介



N-netによる地震波の早期検知
地震津波火山ネットワークセンター
三好崇之



火山灰で噴火推移を調べる
火山防災研究部門
三輪孝央



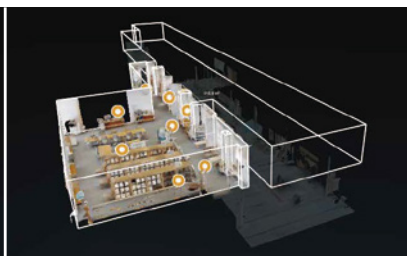
グリーンインフラを生かした
安全・安心なまちづくり
(Eco-DRRと地域の環境・防災)
水・土砂防災研究部門
横山仁



研究者紹介動画は
こちらから
ご覧いただけます

2024年3～5月

■つくば本所では、展示スペースや、自然災害情報室の3DVR化したバーチャルツアーを公開しました。上下左右360度、高画質のバーチャルツアーを防災科研のウェブサイトでご自由にご覧いただけます。



研究交流棟 展示スペース(左)&自然災害情報室(右)

■ベトナムにおいて「機器を設置するための治具および微動計測機器」の特許権を取得しました。

■防災科研が健康経営優良法人2024に認定されました。健康経営優良法人認定制度は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度で、2年連続の受賞となります。

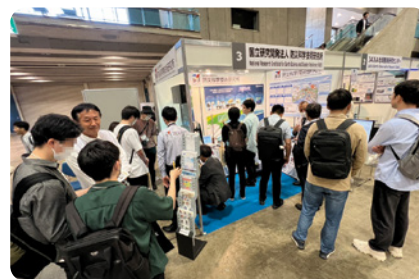


■マルチハザードリスク評価研究部門の内山庄一郎主任専門研究員が、広島県神石高原町からの委嘱を受け、神石高原町防災アドバイザーとして2019年から活動を続け6年目になります。ドローンの防災活用などアドバイスをを行い、昨年の神石高原町地産地防担い手研修会では「ドローン活用の未来展望」についての講演を行いました。



神石高原町入江町長(左)と内山主任専門研究員(右)

■5月26日(日)～31日(金)に、千葉市の幕張メッセにて、日本地球惑星科学連合2024年大会(JpGU2024)が開催され、防災科研はブース出展を行いました。当日は、地震津波火山ネットワークセンターの取り組みについて紹介を行い、陸海統合地震津波火山観測網「MOWLAS」(モウラス)についての展示を行いました。ブースには、地震計の実機や津波計の仕組みが分かる模型を設置し、また、Hi-netの準リアルタイム波形展示などを行い、多くの方に足を止めていただきました。



ブースの様子

防災科研ニュース

2024 No.225

2024年6月30日発行

●ご意見・ご感想をお寄せください e-mail : k-news@bosai.go.jp

■発行



国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 企画部 広報・ブランディング推進課
防災科研ニュース係 TEL.029-863-7784 FAX.029-863-7699

●防災科研ニュースはウェブサイトでもご覧いただけます (<https://www.bosai.go.jp/>)

ISSN 2758-1195



植物油インキを使用しています